

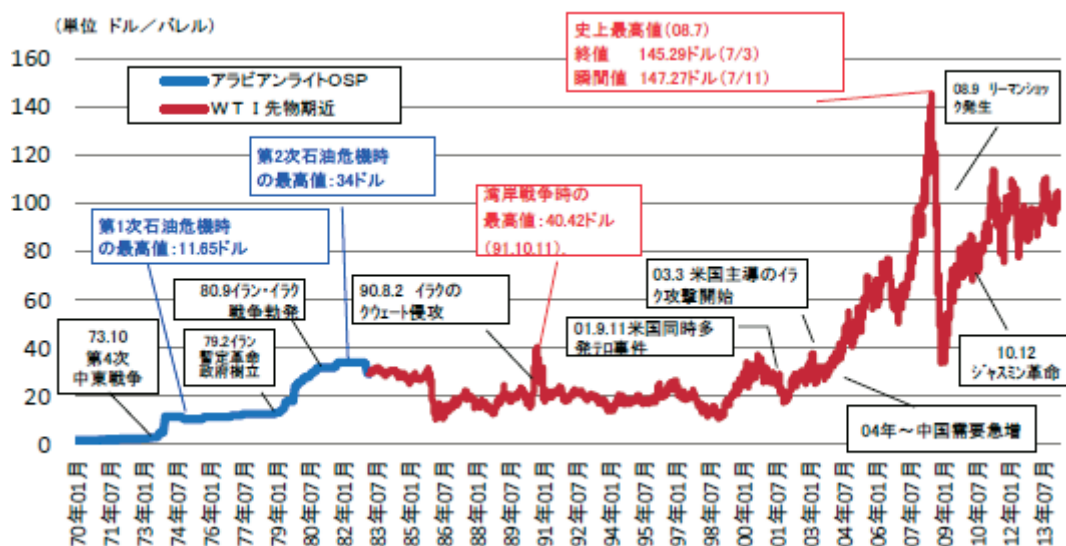
エネルギー白書からシリーズ「我が国が抱える構造的問題」

9 高止まりする我が国の燃料輸入価格

エネルギー需要の拡大、資源獲得競争の激化や、産出地域における紛争などによる供給不安の発生、さらには経済状況の変化による需要動向の変動が、長期的な資源価格の上昇傾向と、資源価格の乱高下を発生させやすい状況を生み出しています。原油価格は、2008年のアメリカの大手投資銀行グループ「リーマン・ブラザーズ」の破綻をきっかけに深刻化した金融危機により、欧米を中心に需要見通しが大きく落ち込んだ結果、2008年夏には瞬間的に140ドル/バレルを超えるまでに急騰した価格が、40ドル/バレルを割り込むまでに落ち込みました。その後は再び上昇し、100ドル/バレルを超える水準となっており、また、価格変動幅も拡大傾向にあります。

我が国の燃料輸入価格は、リーマンショックによる下落の後、石炭は相対的に安定しているものの、原油やLNGを中心に再び上昇傾向にあります。特に、我が国の天然ガスの輸入価格はCIF価格ベースで、2014年1月に史上最高値を記録しました。

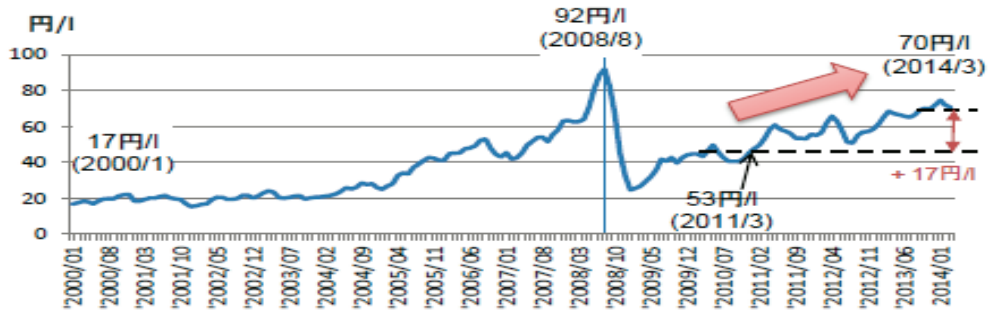
原油価格の変動



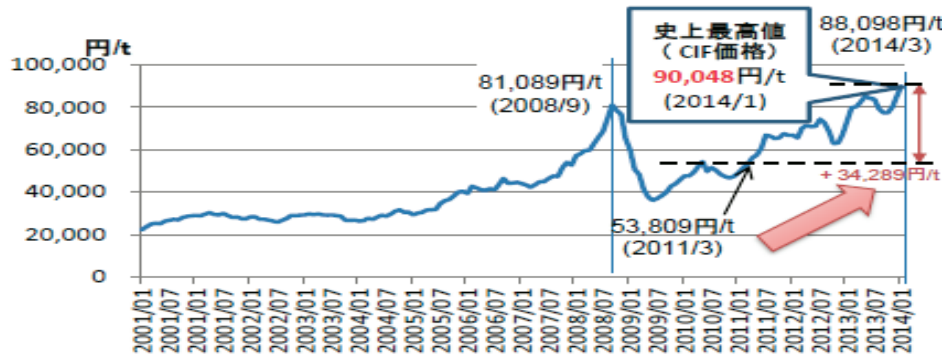
出典： WTI (West Texas Intermediate) 先物価格はCME Group HP を基に、アラビアンライトOSP (Official Selling Prices) はサウジアラムコ発表を基に作成

我が国の燃料輸入価格の推移

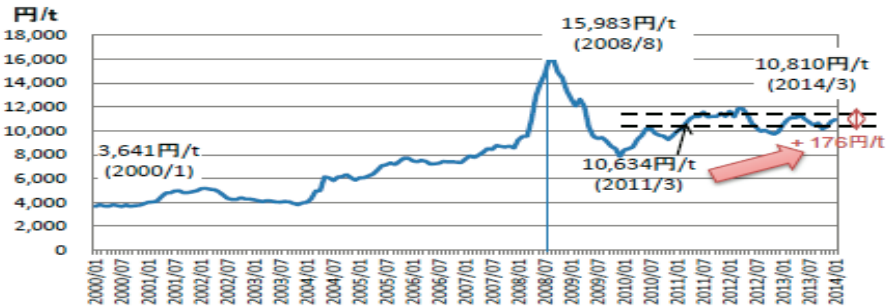
●原油



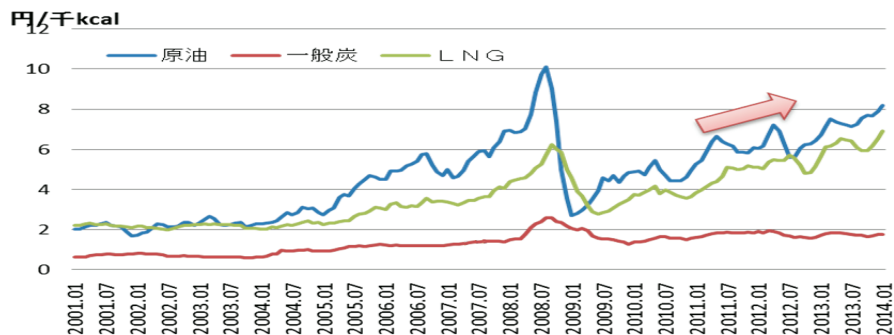
●LNG



●一般炭



●各燃料の熱量当たりの価格推移



出典：財務省「貿易統計」、エネルギー経済研究所資料を基に作成